

袋井市海のにぎわい創出プロジェクト

基本計画

(令和5年度～令和9年度)

令和5年3月策定

袋 井 市

目次

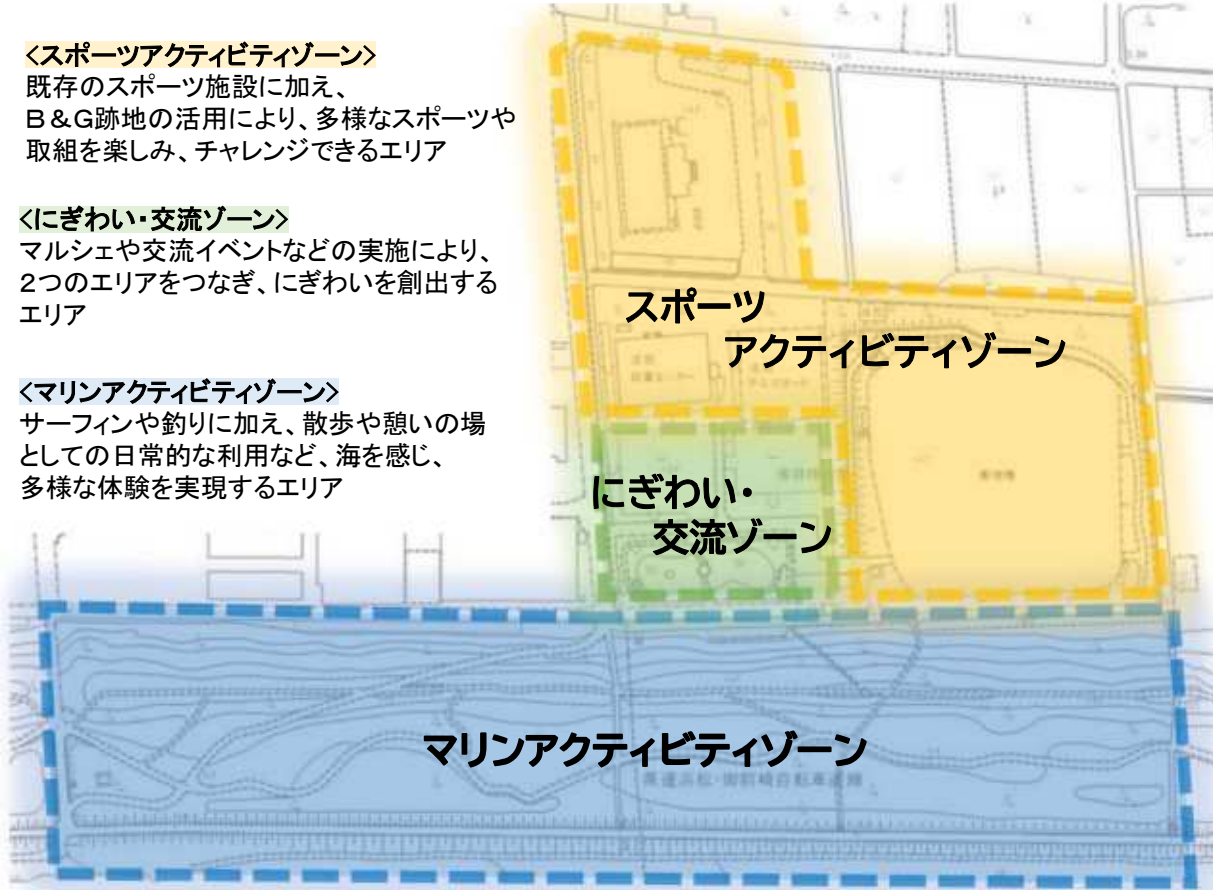
| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 基本計画の策定にあたっての基本的な考え方 | 3 |
| 2. 計画策定の進め方（各施設の整備内容や優先順位の整理の仕方） | 4 |
| 3. 整備構想平面図 | 5 |
| 4. マリンアクティビティゾーン整備の概要 | 6 |
| 5. にぎわい・交流ゾーン整備の概要 | 16 |
| 6. スポーツアクティビティゾーン整備の概要 | 20 |
| 7. 整備スケジュール等 | 24 |
| 8. 参考資料 | 28 |

1. 基本計画の策定にあたっての基本的な考え方

(1) 基本的な考え方について

- 本計画は、「袋井市海のにぎわい創出ビジョン(以下、ビジョンという。)」の実現に向けて、将来的な利活用や保全のあり方など官民一体での対話と試行のもと、ビジョンの推進に係る基本的な考え方(5つの挑戦)や地域の活力創出のための好循環(3つの観点)、同笠エリアの整備方針に基づき、今後5年間で実施予定の環境整備事業について整理したものである。
- 対話と試行については、海を接点とした多様な主体と共に守り活用する組織(幸浦の丘プロジェクト2.0(仮称))の組成に向けた取組や実証イベントなどを通じて継続していくとともに、保全や利活用の状況把握など、利用者ニーズに応じた基本計画の修正・加除についても柔軟に対応していくこととする。
- また、「海のにぎわい創出プロジェクト(以下、海プロという。)」は、海を接点とした多様な主体との出会いから、地域の未来を共に考え、共に創る地域活性化プロジェクトであることから、環境整備にあたっては、バリアフリーに配慮するとともに、再生エネルギー利用を推進した環境配慮型の整備をすすめ、こどもから高齢者まで幅広い世代の誰もが安心して利用できる施設を目指すことを基本としている。
- なお、防潮堤は、御前崎遠州灘県立自然公園や保安林に指定されていることから、ウミガメや海浜植物など多様な動植物を育む自然環境の保全について、特に配慮していく。

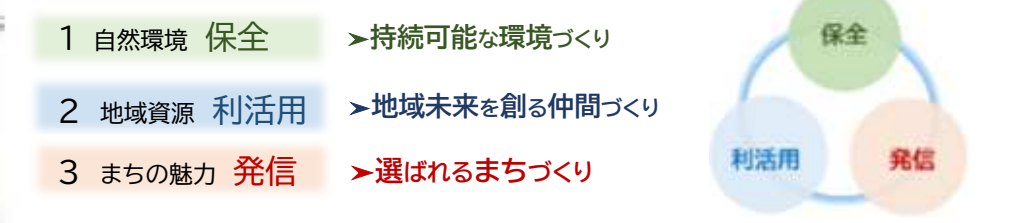
(2) 同笠エリアの各ゾーニングについて



(3) ビジョンの推進について

- ① ビジョンの推進に係る基本的な考え方(5つの挑戦)
- 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦
 - まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦
 - 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦
 - 共創のまちづくり
持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦
 - 迅速・柔軟な対応
時流を逃さず挑戦し、ニーズに的確に
適応していくアジャイル型への挑戦

② 地域の活力創出のための好循環(3つの観点)



③ 同笠エリアの整備方針

- 1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～
- 2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～
- 3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～
- 4 安全・安心の確保
～誰もが気軽に、安心して訪れることができる環境を整えます～

2. 計画策定の進め方(各施設の整備内容や優先順位の整理の仕方)

- マリンアクティビティゾーンは、多様な動植物を育む自然環境に配慮しつつ、地域資源の利活用を図るため、海への来訪者や利用者の利便性向上に加え、海に集う人たちが交流できる場の整備により、多様な体験ができるなど、新たなにぎわいを創出し、エリアの魅力を発信していく。
- にぎわい・交流ゾーンは、利用者ニーズの高い日陰などで憩い休める休憩・交流施設機能を備えた双方の利用者にとって快適に利用できるトイレやマルシェやイベント会場として利用可能な広場など環境改善などにより、従来はスポーツ施設と海で別々に利用していた来訪者が新たに出会う場として活用する。
- スポーツアクティビティゾーンは、既存スポーツ施設の長寿命化に加え、大規模駐車場の整備など来訪者の利便性向上に取り組むほか、エリアとしての一体感を醸成する進入口の緑化等高質区間化やRVパーク、アーバンスポーツ施設など、新たな価値を付与する中で、にぎわい創出に向けた環境整備を実施する。
- 計画策定にあたっては、意見交換などを踏まえ、実証イベントなどを通じて利用者ニーズを確認し策定している(今後、見直していく)。

(プロセス①) 対話(意見交換)

○袋井幸浦の丘プロジェクトワークショップのほか、南部会議、商工団体との意見交換会のほか、スポーツ施設利用者・管理者、サーファー、釣り人などから意見聴取を実施

<にぎわい・交流ゾーン>
 ○日陰など休憩できるスペースが必要
 ○きれいで清潔なトイレが欲しい
 ○ふれあい親水公園の改修
 ○芝生広場が分断されていないか
 ○もっと規模大きなイベントが可能 など

<マリンアクティビティゾーン>
 ○海まで車で気軽に行けるといい
 ○海をのんびり眺められる場所がほしい
 ○海岸侵食をしっかりとしてほしい
 ○ウミガメや海浜植物の保全
 ○砂を洗い落したい(シャワー、水道)
 ○ナショナルサイクルルートの活用
 ○雑草対策が必要 など

<スポーツアクティビティゾーン>
 ○駐車場(B&G跡地)の入口・出口などの運用面での安全性や大規模イベント時の駐車場の確保
 ○エリアの玄関口としての空間整備・高質化
 ○低・未利用地活用(アーバンスポーツ施設ほか)
 ○キャンプが出来るといい
 ○大型バスの駐車を可能にして欲しい など



(プロセス②) 試行実証

○意見交換に基づく利用者ニーズの確認や仮設などにより体験を通じて整備後のイメージ(使い方や維持管理など)の共有を実施



(整備イメージの共有ほか)



(プロセス③) 計画への反映

○整備内容に係る意見交換等を踏まえ、5つの挑戦や3つの観点、同笠エリアの整備方針との整合を図りつつ、整備施設や内容、優先順位などを整理し、計画(案)を策定し、さらに意見交換を実施

○意見等は、計画又は事業の実施段階において事業に反映

○整備後の維持管理が不安
 ○同笠の正面(亀の松南)の階段に自転車を押して入れるスロップがあるといい



(袋井幸浦の丘プロジェクトワークショップ)

○袋井幸浦の丘プロジェクトワークショップの運営支援や地域おこし協力隊制度の活用、実証イベントの開催などを通じて、海を守り育てる仲間・仕組みづくりを通じて、利用者らのニーズを把握し、必要に応じて基本計画を見直していくとともに、多様な主体が参画する「地域の未来を共に考え、共に創る」袋井幸浦の丘プロジェクト2.0(仮称)の組成に取り組んでいく。



3. 整備構想平面図

○これまでの意見交換や試行実証の結果を踏まえ、同笠エリアが有する地域資源としての価値を最大限活用していくため、本計画において、図のとおり整備を計画した。(詳細は次項目以降参照)

▶ 進入口付近緑化等高質空間整備

・実証イベント時に大規模駐車場エリア北西及び海側に「DORI」ロゴを設置
 ・エリアの一体感醸成とともに、来訪者を迎え入れる玄関口としての機能の必要性を確認(撮影スポットとしての利用も)(駐車場の「DORI」ロゴ)



▶ アーバンスポーツ施設

・サーフィンスクール(実証イベント)や地元サーファーとの意見交換を通じて、スケートボードなどアーバンスポーツとの親和性やニーズを確認

▶ 休憩・交流施設兼トイレ整備、ふれあい親水公園改修

・清潔なトイレが欲しい(海岸利用者、実証イベントなど来訪者)
 ・日陰で休め憩える休憩・交流施設があるといい
 ・実証イベント時の来訪者動線を踏まえ、ふれあい親水公園東側が、海との結節点になっていることを確認
 ・ふれあい親水公園の機能回復を望む(有効活用してほしい)



▶ 芝生広場の一体化(園路の整備含む)

・実証イベント時のステージイベント及びブース出展
 ・芝生広場(東側)のこども縁日が好評*も、中央通路により一体活用(さらなるにぎわい創出)に課題が残った

▶ 段床展望スペース、南北通路交流スペース

・海をのんびり眺められる場所が欲しい
 ・人が集う空間にして欲しい



▶ 階段の改修・手摺り設置

・階段に手摺りがあると安心

▶ 車両進入路の拡幅と歩行者道路の新設

・進入路の安全性が心配(実証イベントほか)



▶ 大規模駐車場
 ・既設駐車場が狭くラインも消えてしまっている
 ・利用者が増えた際の安全性に不安

▶ RVパークの整備

・車中泊ニーズの拡大
 ・早朝から満車になる防潮堤北側駐車場(県外ナンバーも多い)



<マリンアクティビティ>



(同笠海岸はサーフィンや釣りの有名なスポット)

▶ シャワー、水洗場

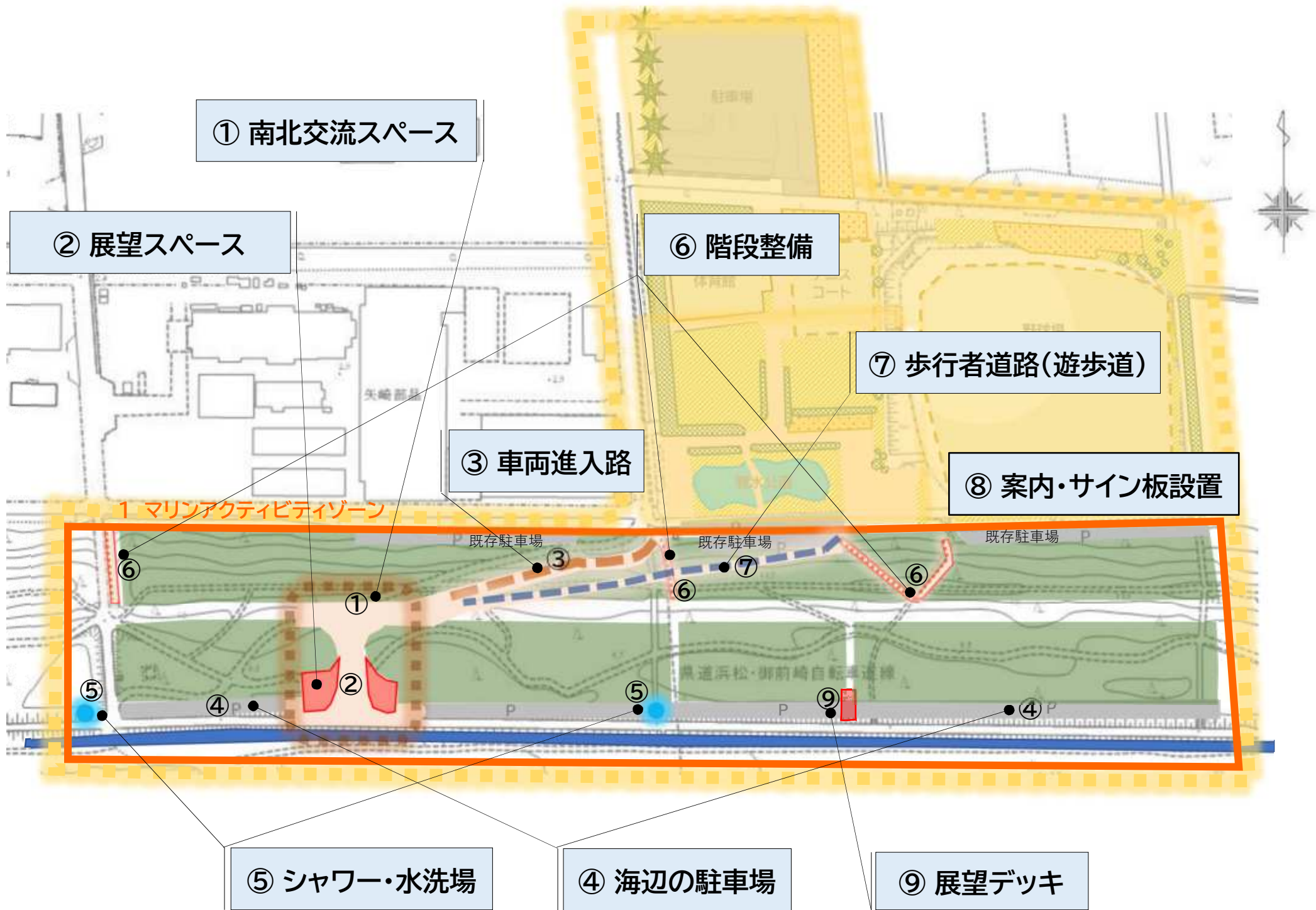
・砂浜への入り口に砂を洗い落とす水道設備があるといい(サーファー、実証イベント)

▶ 海辺の駐車場

・砂浜から見える場所に駐車場が欲しい(車上荒らし等の防犯対策を含む)



4. マリンアクティビティゾーン整備の概要



4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ①南北通路交流スペース

(1)施設名称 南北通路交流スペース



参考施設：神奈川県茅ヶ崎市

(2)施設概要

- ・景観性の高い舗装A=1,250㎡
- ・防犯兼海岸防災カメラ設置

【整備背景・整備理由】

(整備方針)

スロープを上り海を見に訪れる来訪者が初めて海を目にする場所であり、マルシェやコンサート等イベント広場として活用するため上質な空間整備を行う。また太平洋岸自転車道を通行するサイクリストを市内へ誘導する玄関口としての整備する。なお、安心安全に海岸利用できるように防犯兼海岸防災カメラを南北通路北側に設置する。

(実証実験)

海プロフェスタでは中央部にフォトスポットベンチを設置し、また海側にもDORIモニュメントを設置した。

(実証実験結果)

多くの人々が南北通路交流スペースを利用し、フォトスポットにて海を背景に写真を撮り、にぎわいが生まれたとともに同笠海岸の魅力を情報発信する場となった。



海プロフェスタ フォトスポット (ベンチ)



海プロフェスタ フォトスポット (DORIモニュメント)

(概算事業費)
40,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

防潮堤天端にある南北に広いスペースをマルシェ等イベント広場として活用するため、景観性の高い舗装により整備していく。

利用者が海の魅力を情報発信したくなるような環境整備を行う。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

4 共創のまちづくり
持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦

●3つの観点

利活用

発信

●4つの整備方針

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



南北通路交流スペース整備後のイメージ図

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ②展望スペース

(1) 施設名称 展望スペース

(2) 施設概要

- ・展望スペース整備
- ・タープ(日よけ)設置

【整備背景・整備理由】
(整備方針)

サーファー、釣りなど海岸利用者また海を見に訪れる来訪者に加え、太平洋自転車道を通るサイクリストが滞在し交流できるスペースとして整備する。静岡文化芸術大学による空間デザインは、シンボリックでランドマーク的かつ自然風景と調和する“砂と波の造形”をモチーフにしたものとし、マルシェやコンサート等イベント広場としての活用を考慮した整備を行う。

(実証実験)

海プロフェスタでは仮設材による展望スペースを設置し、眺望を確保し、意見を聞いた。

(実証実験結果)

海プロフェスタでは、約2500人の来場者があり、その大多数が展望デッキの眺望を楽しみ、アンケートでは「開放的で気持ちいい、眺めがよく素晴らしい」「ゆっくり座って海が見たい」など海を眺めるスペースとしての意見に加えて「釣りの大会や音楽イベント、砂浜を使ってのイベントなど活用できる」「広いスペースがあるため、もっといろいろなイベントをしてほしい」などスペースの利用に期待する意見が多くあった。

(概算事業費)
85,000千円



参考施設:小室山段
床展望スペース



海プロフェスタ
仮設展望スペース



海プロ 現地ワークショップ 海プロフェスタ キッチンカー

(3) 整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

南北通路交流スペースとともにマルシェやコンサート等のイベント時に利用する外部電源を設置し、人が集い、交流する場として活用し、普段は多くの人々が海を眺め、ゆっくり滞在できる空間として整備を行う。

(4) 海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

4 共創のまちづくり
持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦

●3つの観点

利活用

発信

●4つの整備方針

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



静岡文化芸術大学作成 イメージパース

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ③車両進入路

(1)施設名称 車両進入路(スロープ)



参考施設:法多山

(2)施設概要 ・既設進入路拡幅(W=3.0m→5.0m)

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

防潮堤へ車で進入できるようにアクセス環境の整備を行う。安全な道路整備を望む声が多いため、自転車通行帯の着色や速度抑制の工夫(ハンプや着色など)を検討する。

(実証実験)

海プロフェスタでは、現地に拡幅巾を示し、幸浦の丘プロジェクトのワークショップ参加者(15名)で現地ツアーを行った。

(実証実験結果)

路肩の状況など実際歩いて目にすることで車両の擦れ違いのできることを確認した。



既設スロープ



海プロフェスタ 現地ワークショップ

(概算事業費)
45,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

サーファーや釣り人など日々の海岸利用者の利便性向上に加え、これまで高い防潮堤が障害となり海を眺めに来れなかった来訪者の増加が期待される。また海へのアクセス向上に伴う海のにぎわい増加により、スロープ降り口にある浅羽体育センターエリアの活性化につながる。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たににぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

3 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

●3つの観点

利活用

発信

●4つの整備方針

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

4 安全・安心の確保
～誰もが気軽に、安心して訪れることが
できる環境を整えます～



車両進入路(スロープ)整備後のイメージ図

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ④海辺の駐車場

(1)施設名称 海辺の駐車場

(2)施設概要

- ・駐車場整備約70台(障がい者駐車場含む)
- ・Uターンスペース2箇所



海プロフェスタでの駐車状況

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

防潮堤整備以前は、砂浜まで車両が乗り入れしていたが、本エリアは御前崎遠州灘県立自然公園に指定されており、植生、野生動植物の生息・生育など自然環境保全の観点から砂浜への車両の乗入は行わない。

海岸利用者の利便性向上や車上荒らし等防犯対策にも配慮するため、防潮堤に駐車場を整備する。

(実証実験)

海プロフェスタでは、現地ワークショップを開催し、駐車角度や車両の擦れ違い幅等を確認した。

(実証実験結果)

路肩の状況など実際歩いて目にすることで車両の擦れ違いの確認を確認した。



駐車場整備エリア



Uターンスペースイメージ

(概算事業費)
67,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

サーファーや釣り人など海岸利用者の利便性向上に加え、これまで海に来ることをためらっていたお年寄りや障がいのある方にも利用しやすい環境整備を行う。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

3 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

●3つの観点

保全

利活用

●4つの整備方針

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

4 安全・安心の確保
～誰もが気軽に、安心して訪れることが
できる環境を整えます～



駐車場整備後のイメージ図

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ⑤シャワー・水洗場

(1)施設名称

シャワー・水洗場

(2)施設概要

・シャワー・水洗場設置 2箇所

【整備背景・整備理由】

(整備方針)

コロナ禍、デジタル社会の進展により、都市部の過密な暮らしからの脱却など人々の価値観やライフスタイルが変化していることやオリンピック2020を契機としたサーフィンの注目度から自然に親しむレジャーが注目されており、海利用者目線でシャワー・水洗場の環境整備を行う。

(実証実験)

海プロフェスタでは、海辺エリアで初心者向けサーフィンスクールを行い、袋井市出身のプロサーファーによるデモ観覧、ヒラメ稚魚の放流イベント、普段は屋内で行っているヨガを開催し、参加者へ意見を求めた。

(実証実験結果)

参加者意見として、砂を落とし手を洗うなどシャワーや水洗場利用の必要性を確認した。

(概算事業費)

14,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

サーファーや釣り人など海岸利用者の利便性向上に加え、普段海を利用しない人のニーズを的確にとらえることにより、新たな来訪者を含めたにぎわいを創出する。



参考施設：千葉県一宮町



海プロフェスタでの様子

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

●3つの観点

●4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

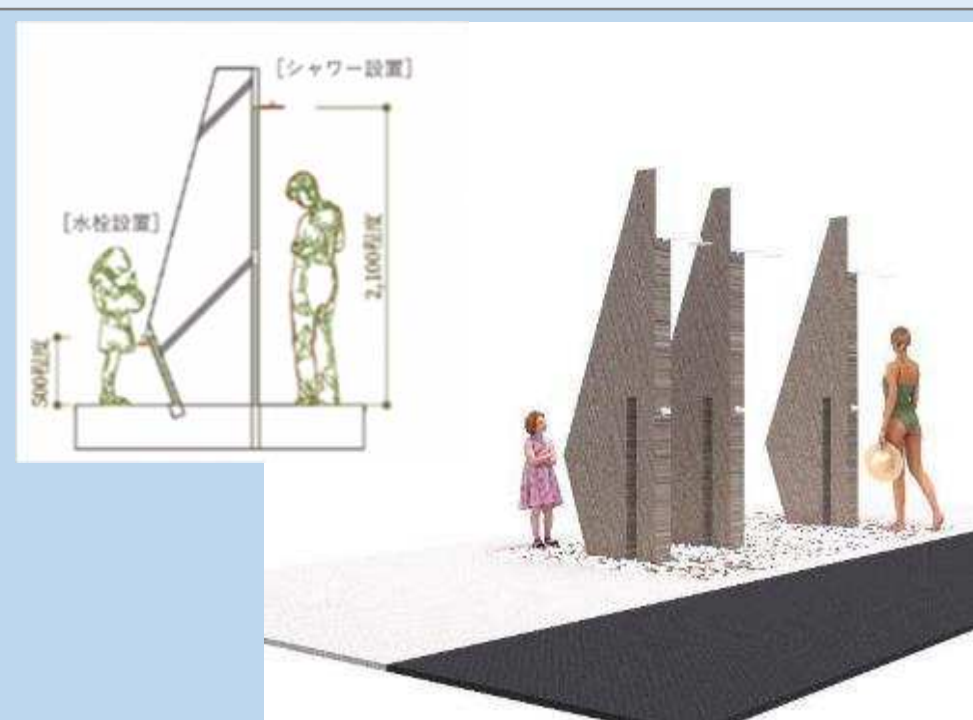
1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

発信

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～

5 迅速・柔軟な対応
時流を逃さず挑戦し、ニーズに的確に
適応していくアジャイル型への挑戦



静岡文化芸術大学作成 イメージ図

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ⑥階段

(1)施設名称 階段

(2)施設概要

- ・手すり設置
- ・階段踏面舗装

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

海岸利用者のみならず普段海に来ることのない利用者については高齢者や子どもなどを想定し、安全確保に努め、より歩きやすい階段整備を行う。

(実証実験)

海プロフェスタでは、アクセス階段の両脇部分の除草などを事前に行い、利用者が歩きやすい幅員を確保し、安全・安心に利用できる空間整備に努め、来場者に意見を聞いた。

(実証実験結果)

来場者意見として、幅員確保など階段の適切な維持管理や手摺設置の必要性を確認した。

(概算事業費)
10,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

階段に手すりを設置し、踏面を舗装することで、利用者の安全性や利便性の向上となり、高い防潮堤が障害となり海を眺めに来れなかった来訪者の増加が期待される。また散歩など普段使いも含めた海岸エリアへの新たな来訪者の増加につなげる。



参考施設:福岡市



参考:手すり・踏面舗装



海プロフェスタ時の除草後の状況

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

4 共創のまちづくり
持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦

●3つの観点

利活用

●4つの整備方針

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

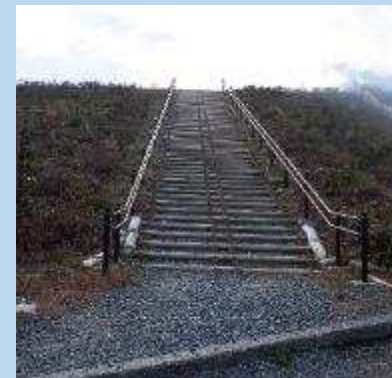
4 安全・安心の確保
～誰もが気軽に、安心して訪れることが
できる環境を整えます～

施工前



袋井市

施工後(イメージ)



参考施設:浜松市



袋井市 未舗装のため荒れた階段(現状)

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ⑦歩行者道路(遊歩道)

(1)施設名称 歩行者道路(遊歩道)

(2)施設概要 ・遊歩道整備(W=2.0m)

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

海岸エリアへのアクセスについては、スロープ、階段があり、整備にあたっては、スロープは車や自転車が通行し混在交通となるため、歩行者の安全面から遊歩道を整備する。また、来訪者が防潮堤から浅羽体育センター敷地内に新たに計画する休憩・交流施設兼トイレへアクセスしやすい環境整備を行う。また、利用者に愛着を持っていただくため、利用者と共同で一部手作りの遊歩道を整備する。

(実証実験)

海プロフェスタでは、現地に計画ルートを示し、幸浦の丘プロジェクトワークショップの参加者(15名)で現地ツアーを行い、計画ルートや幅員について確認を行った。

(実証実験結果)

現地ツアー後のアンケートでは、「海や浅羽体育センターとの回遊性が生まれとてもいい」また「体育センターとのアクセスも向上する」との意見を得た。

(概算事業費) 20,000千円



参考施設:袋井市原野谷川河川敷
(市民参加による遊歩道整備)



(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

防潮堤と浅羽体育センターの回遊性が生まれることで、海岸エリアと既存施設との交流が活発化し、相乗効果により新たな来訪者を含めたにぎわいを創出する。



参考施設:宮崎市



海プロフェスタ 現地ワークショップ

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

1 地域活力の創出
新たににぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

4 共創のまちづくり
持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦

●3つの観点

利活用

発信

●4つの整備方針

2 一体感の醸成と自然との調和
~各エリアの相乗効果を高めます~

4 安全・安心の確保
~誰もが気軽に、安心して訪れることが
できる環境を整えます~



歩行者道路(遊歩道)整備後のイメージ図

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ⑧案内・サイン

(1)施設名称 案内・サイン板

(2)施設概要 ・動植物保全看板設置 ・案内・サイン板設置



参考施設：浜松市
(動物保全看板)



参考施設：袋井市(植物保全看板)

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

本エリアは、県立自然公園に指定されており、植生、野生動植物の生息・生育など自然環境を保全していることを海岸利用者及び来訪者に理解してもらうため看板を設置する。今後増加する来訪者に対し案内板や注意喚起看板などデザインを統一するなど整備を行い、安全に周遊しやすいエリアとして整備する。またロゴデザインの作成また活用により同笠エリアをブランディング化する。

(実証実験)

海プロフェスタでは、案内サインなどは設けずパンフレットによる案内を行った。また、静岡文化芸術大学により、ロゴデザイン4案の展示や海岸エリアの名称について来場者へのアンケートを行った。

(実証実験結果)

来場者によるアンケートでは、エリア表示や案内看板がほしいとの意見が多くあった。また、静岡文化芸術大学ブースにてサインのロゴデザインについて意見聴取を行った。



参考施設：福岡市
(案内板)



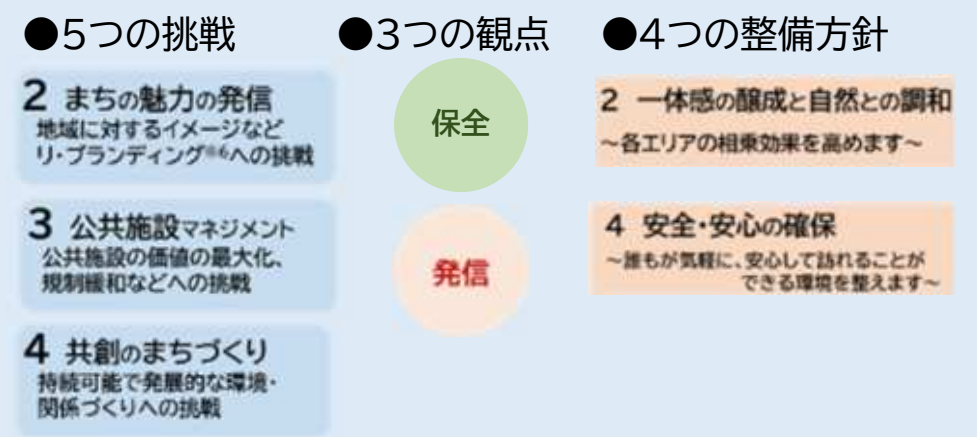
海プロフェスタ 現地ワークショップ
(静岡文化芸術大学ブース)

(概算事業費)
4,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

統一したデザイン看板やロゴデザインの活用によりエリア全体に統一感を持たせ、利便性の向上や新たな訪問者の増加につなげる。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合



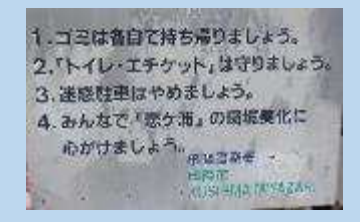
静岡文化芸術大学作成 案内やサインに表示するロゴのデザイン(案)



参考施設：宮崎市
(注意喚起看板)



参考施設：浜松市
(注意喚起看板)



参考施設：宮崎県串間市
(注意喚起看板)

4. マリンアクティビティゾーン整備の概要

マリンアクティビティゾーン ⑨展望デッキ

(1) 施設名称
展望デッキ

(2) 施設概要
・展望デッキ整備

【整備背景・整備理由】
(整備方針)

昭和50年代に整備された既設展望台が防潮堤北側にあるが、現在、老朽化により使用できない状況である。これまで、既設展望台の利活用に向けて検討したが、老朽化が進行しており、来訪者の安全の確保が困難である。また現在の位置では、防潮堤整備後の防災林の成長に伴い、海側の眺望が遮られることから、既設展望台を撤去し、防潮堤南側に防災林が成長した際にも太平洋のパノラマ眺望を楽しめる展望デッキを整備する。



参考施設: 宮崎県日南市
(展望デッキ)



海プロフェスタ仮設展望スペース



太平洋のパノラマ眺望①



太平洋のパノラマ眺望②

(概算事業費)
25,000千円

(3) 整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

海の眺望を楽しめる展望デッキの整備により、周辺エリアとの回遊性が生まれ、海岸エリアとスポーツエリアの交流が活発化し、相乗効果により新たな来訪者を含めたにぎわいを創出する。また、既設展望台跡地についても周辺エリアとの回遊性を考慮し環境整備を行う。

(4) 海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

●3つの観点

●4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

発信

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

5 迅速・柔軟な対応
時流を逃さず挑戦し、ニーズに的確に
適応していくアジャイル型への挑戦

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～

現 状



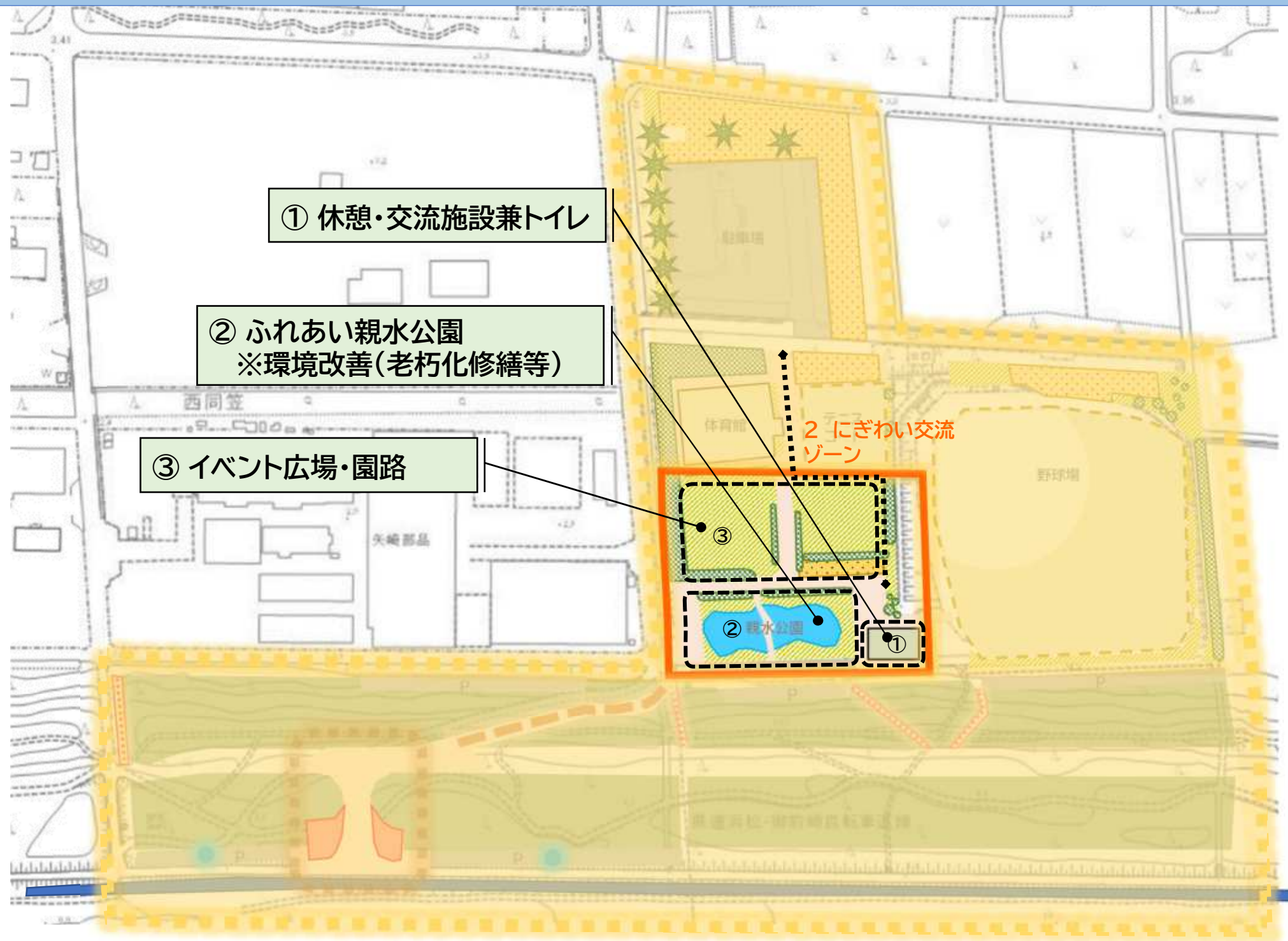
既存展望台(北側・使用不可)

整備後(イメージ)



参考施設: 宮崎県日南市

5. にぎわい・交流ゾーン整備の概要



にぎわい・交流ゾーン ①休憩・交流施設兼トイレ

(1)施設名称 休憩・交流施設兼トイレ

(2)施設概要

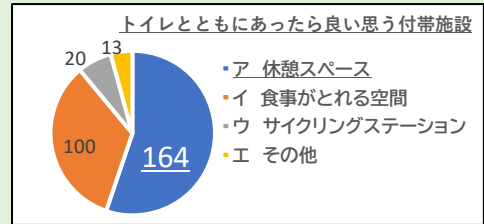
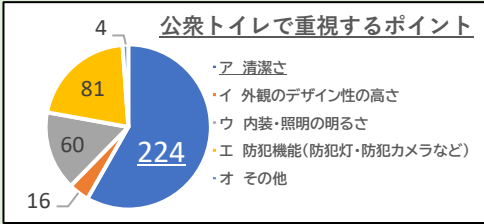
- ・来訪者の休憩、交流施設兼トイレ整備 建築面積 A=150㎡
- ・トイレ整備(男小4基・大1基 女4基 誰でもトイレ1基)
- ・障がい者用駐車場整備(隣接地)

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

令和4年8月から10月のサーフィンや釣りのハイシーズン期間における土・日・祝日の海利用者数の実地調査を踏まえ、トイレ等の一日当たり利用者数を350人と見込み整備を行う。

海利用者やスポーツ施設利用者が本エリアに滞在し交流できる休憩スペースをバリアフリー法に基づき整備するとともに、トイレも設置する。また、車いす利用者などに配慮し、障がい者用駐車場を隣接地に整備する。

(実証実験)11. 3イベント時は仮設トイレ2基を配備し、利用者から意見聴取した



その他意見 ・ウォシュレット・自動水栓機能を整備してほしい
・こども用トイレ機能など、こどもに配慮したトイレにしてほしい

(実証実験結果)

実証実験の結果、同笠エリアを訪れる様々な来訪者は、清潔で安心感のあるトイレの整備を求め、イベント時のみならず、多様な属性の来訪者が、リピーターとして何度も訪れたい施設に、また、結節点であるこの場に、休憩・交流の機能を求める声も多く、交流施設兼トイレ施設を整備を進めることが発展性に繋がると確認。

(概算事業費)
96,000千円(設計費含む)

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

スポーツエリアの利用者だけではなく、マリンスポーツや太平洋岸自転車道を利用するサイクリストなど、海岸を訪れる方々が、トイレ利用かつ休憩・交流の場として、利用を想定する

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

- 5つの挑戦
- 3つの観点
- 4つの整備方針



設置予定位置



設置予定位置



参考施設

参考施設:丹波中央公園サイクルステーション
(兵庫県園芸・公園協会HPから引用)



参考施設

参考施設:六甲最高峰トイレ
(神戸市HPから引用)

にぎわい・交流ゾーン ②ふれあい親水公園 ※環境改善(老朽化修繕等)

(1)施設名称

ふれあい親水公園 ※環境改善(老朽化修繕等)

(2)施設概要

親水公園敷地面積 A=3,600㎡

- ・園路改修
- ・六角堂(あずまや)・橋の改修
- ・水位調整等の給排水ポンプ改修
- ・池の周辺防護柵の整備

【整備背景・整備理由】 (整備方針)

防潮堤含めたエリア全体の周遊を考えた際の結節点となる場所となるため、開設当時(平成2年)の機能回復へと改修を実施するとともに、利用者の安全性を確保するため、周囲に低い防護柵を設置する等を行う。

(実証実験)

閉鎖していたふれあい親水公園の園路を解放した。(中央橋は閉鎖するが、外周囲路部分を散策できるよう解放した)
大規模駐車場から防潮堤(海)に向かう経路として運用した。

(実証実験結果)

実証実験を通し、周遊時の当施設の重要性を再確認できた。
また、開設当時の状況を知る利用者からは親水機能の復元を、との思いも強く、橋脚上のあずまやを利用できるよう回復してほしいとの意見も多くあった。

(概算事業費)

27,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

スポーツアクティビティゾーンとマリンアクティビティゾーンの結節点となる「にぎわい・交流ゾーン」において、来訪者が憩える自然調和型のスペースとなるべく想定する。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

- 5つの挑戦
- 3つの観点
- 4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

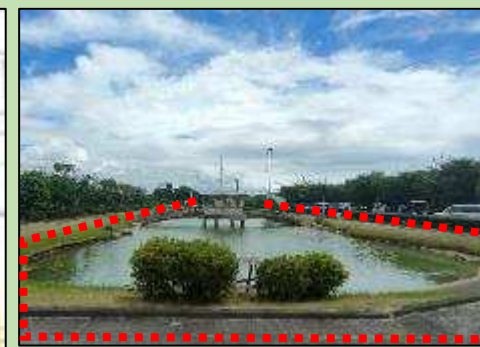
3 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

発信

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



施設位置



施設状況(現状)



施設状況(現状)



参考:台風15号に伴う水没状況

にぎわい・交流ゾーン ③ イベント広場・園路

(1)施設名称
イベント広場・園路

(2)施設概要
・広場整備 A=3,600㎡
・広場整備に伴う園路改修

【整備背景・整備理由】
(整備方針)
海を活かした観光交流にぎわいイベントの場づくりと来訪者が楽しく周遊できる園路を一体的に整備する。

(実証実験)
現状の空間において分散した形で、ステージイベント及びこども向け軽運動催しや、キャンピングカー展示を実施した。
ステージでの音楽演奏やダンスなどの観覧及び、青空の下で食事や休憩スペースとして多くの方々に利用いただいた。

(実証実験結果)
この空間を、にぎわい創出の拠点広場として整備することにより、海岸利活用と連携した様々な魅力的イベントの開催が可能となり、市内外から誘客できる多目的な場となることを確認した。
また、RVパークとともにキャンプなどアウトドアを楽しむ場として活用の幅が広まるとともに、グラウンドゴルフイベントやこどもの遊び場としての利用といったニーズにも対応できる場となる。

(概算事業費)
40,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項
ステージイベントの開催をはじめ、地場産の商品を販売するマルシェや交流活動の広場として活用されるとともに、平時には来訪者の憩いの広場としての利用を想定する。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合
●5つの挑戦 ●3つの観点 ●4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

3 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

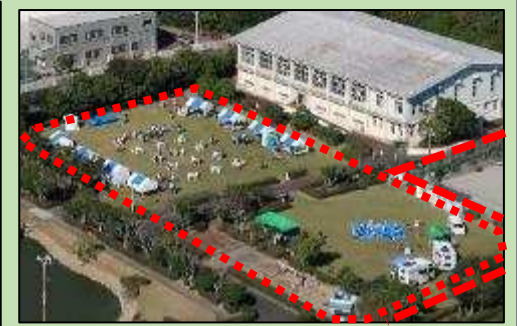
発信

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



設置位置



参考:海プロジェクト時(写真)パラモーター連州 富田さん提供

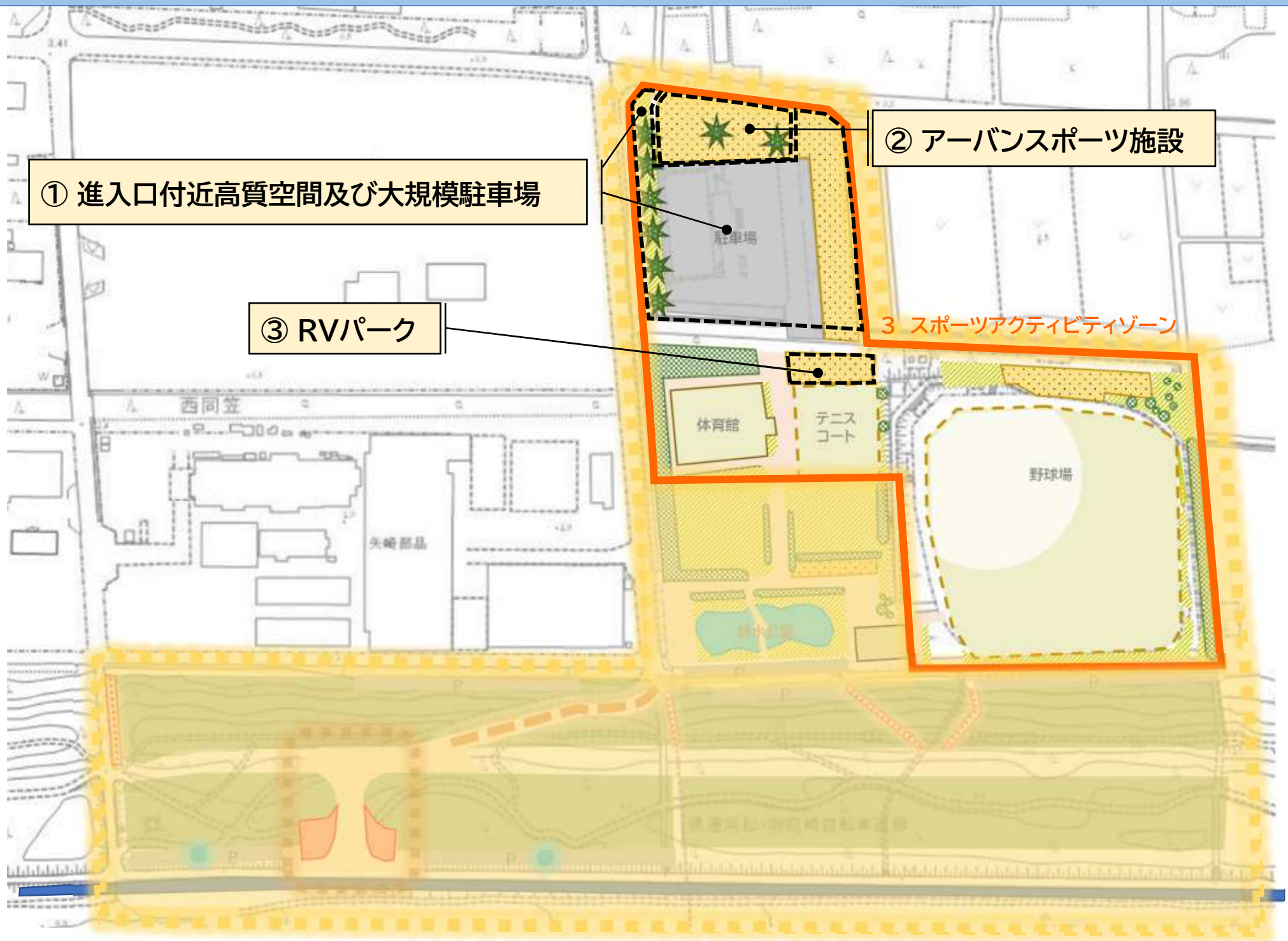


施設利用状況(狭いエリアでの小規模グラウンドゴルフ)



参考:海プロジェクト時状況

6. スポーツアクティビティゾーン整備の概要



① 進入口付近高質空間及び大規模駐車場

② アーバンスポーツ施設

③ RVパーク

3 スポーツアクティビティゾーン

6. スポーツアクティビティゾーン整備の概要

スポーツアクティビティゾーン ①進入口付近高質空間及び大規模駐車場

(1)施設名称

進入口付近高質空間及び大規模駐車場

(2)施設概要

- ・大規模駐車場は全面舗装施工 駐車台数約140台 A=3,500㎡
- ・エリアの玄関口となる進入口交差点に高質空間を演出するデザイン看板を設置するとともに、駐車場西側に海を意識したヤシの木を植樹 A=600㎡
- ・駐車場から各施設への歩行者用通路を整備 A=650㎡

【整備背景・整備理由】

(整備方針)

同笠エリアの玄関口となる交差点にメイン看板を設置するとともに、海へ続く道路の東側に海を意識した植樹(ヤシの木等)を行う。また、大規模駐車場への出入口は北側道路からとし、安全面で車両と歩行者が交錯しない導線が確保できる歩行者通路を設置する。

(実証実験)

駐車場北西の顔となる入口に「DORI」モニュメントを仮設置したイベント時、車両と歩行者が交錯しないよう駐車場入口を北側道路からの出入に一本化し運営した。

(実証実験結果)

イベント開催時など多くの来場者がある場合、車両の出入口と歩行者の導線を分離したことにより、安全確保できることを確認した。

実証実験時「DORI」モニュメントにて、多数の来訪者が一緒に記念写真を撮影しており、玄関口となる交差点での高質空間のシンボル看板、沿道への植樹は効果が高いと確認した。

(概算事業費)

- 進入口付近高質修景整備 9,000千円
- 大規模駐車場整備 60,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

様々なシーンでも安全に車両が駐車でき、また、本エリアの玄関口に高質な修景整備を施すことで、訪れる方々を迎え入れ、「ワクワク」を感じ、口コミによる情報伝達・来訪者増への効果が期待できる。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

- 5つの挑戦
- 3つの観点
- 4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

3 公共施設マネジメント
公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

発信

1 利便性の向上
～使い手の視点を大切にします～

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



設置予定位置



参考:海プロイベント時 (写真)パラモーター遠州 富田さん提供



参考:海プロイベント時 シンボル表示



参考植樹例

海に向かうヤシの木ロードの整備イメージ

6. スポーツアクティビティゾーン整備の概要

スポーツアクティビティゾーン ②アーバンスポーツ施設

(1)施設名称

アーバンスポーツ※施設

※都市での開催が可能な、スケートボードや3人制バスケットボールなどのスポーツ

(2)施設概要

- ・アーバンスポーツ施設整備(スケートボード・3on3バスケットコート)
- 敷地面積 A = 1,400㎡

【整備背景・整備理由】

(整備方針)

新たなスポーツニーズに対応し、利用者層の拡大を図ることで、本エリアのにぎわい創出及び、魅力的なエリアブランディングを推進するとともに、大型駐車場北側車道から認識でき、玄関口ともなる箇所にシンボリック施設として無料または低廉な利用料で使用できるよう整備する。

(実証実験)

「横乗りスポーツ」として、サーフィンとスケートボードは親和性が高く(共通愛好者が多い)、サーフィンイベントを実施する中で、本エリアでの横乗りスポーツへのニーズのヒアリングを実施した。

(実証実験結果)

実証実験により、サーフィンを通じて若者の横乗りスポーツへの関心度の高さや一定の需要があることを確認できた。

(概算事業費)

65,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

当エリアを代表する魅力的でユニークな施設として、サーフィンなどのマリンスポーツ愛好者以外(こどもたち)でも、安全にアーバンスポーツができる施設を想定する。

市外からの誘客(交流人口の拡大)にも寄与するものと期待できる。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

●3つの観点

●4つの整備方針

1 地域活力の創出
新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

2 一体感の醸成と自然との調和
～各エリアの相乗効果を高めます～

2 まちの魅力の発信
地域に対するイメージなど
リブランディングへの挑戦

発信

3 ワクワクの創出と発信
～新たな出会いや価値を創出します～



設置予定位置



設置予定位置



参考施設

参考施設: スケートボードパーク長居(大阪市)



参考施設

参考施設: 泉南りんくう公園(大阪市)

6. スポーツアクティビティゾーン整備の概要

スポーツアクティビティゾーン ③RVパーク

(1)施設名称

RVパーク※

※広い駐車スペースや電源設備などを整備し、快適に安心して車中泊できる施設

(2)施設概要

・RVパーク整備 敷地面積 A =450㎡

【整備背景・整備理由】

(整備方針)

県外など遠隔地のサーファーの利便性向上に加え、アウトドア愛好者も取り込んだにぎわい創出を意識し、魅力的な施設を整備する。電源を設置する等により全国最大のRVパークネットワーク機関の認定・連携を経て、有料サイト運営を検討する。

(実証実験)

キャンピングカー展示、体験イベントを実施

(実証実験結果)

海イベントへの来訪者(車中泊などをしているマリンスポーツ愛好者のみならず、親子連れファミリーにも人気が高い)に、大変好評で、車両内へ搭乗見学・説明を受ける方も多く、今後も、こうしたライフスタイルにあこがれ、行動する方々のニーズが高いことが確認できた。

(概算事業費)

8,000千円

(3)整備後の利活用シーンや機能面など付帯事項

海への来訪者やアウトドアで全国を旅をする愛好者が、便利に利用できる車中泊駐車場の整備による滞在性の向上により、県内外の多様な利用者が来訪し交流が生まれる施設を想定する。

(4)海のにぎわい創出ビジョンとの整合

●5つの挑戦

●3つの観点

●4つの整備方針

1 地域活力の創出

新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

利活用

2 一体感の醸成と自然との調和

～各エリアの相乗効果を高めます～

2 まちの魅力の発信

地域に対するイメージなど
リ・ブランディングへの挑戦

発信

3 ワクワクの創出と発信

～新たな出会いや価値を創出します～



設置予定位置



設置予定位置



参考施設

参考施設:RVパークsmart



参考施設

参考施設:RVパーク用宗

7. 整備スケジュール等

7-1 マリンアクティビティゾーン 概算事業費 310,000千円

| | 概算事業費 (千円) | R 5 | R 6 | R 7 | R 8 | R 9 |
|--------------|---------------|---------|-----|-----|-----|-----|
| 展望スペース | 85,000 | 設計 → 整備 | | | | |
| 南北通路交流スペース | 40,000 | 設計 → 整備 | 整備 | | | |
| 遊歩道・階段整備 | 30,000 | 設計 | 整備 | | | |
| 海辺の駐車場・展望デッキ | 92,000 | 設計 | | 整備 | | |
| 車両進入路 | 45,000 | 設計 | | 整備 | | |
| シャワー水洗場 | 14,000 | 設計 | | 整備 | | |
| 案内・サイン看板 | 4,000 | 設計 | | 整備 | | |

7-2 にぎわい・交流ゾーン及びスポーツアクティビティゾーン 概算事業費 305,000千円

| | 概算事業費 (千円) | R 5 | R 6 | R 7 | R 8 | R 9 |
|-------------------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 休憩・交流施設兼トイレ | 96,000 | 設計 | 整備 | | | |
| ふれあい親水公園 ※環境改善 | 27,000 | | | 整備 | 整備 | |
| 進入路付近高質空間 | 9,000 | | 整備 | | | |
| イベント広場等 | 40,000 | | 設計 | 整備 | | |
| RVパーク | 8,000 | | 設計 | 整備 | | |
| アーバンスポーツ施設 | 65,000 | | | | 設計 | 整備 |
| 大規模駐車場 | 60,000 | | | | 設計 | 整備 |

※各事業の事業費については、基本設計での概算工事費であり、3か年推進計画及び財政状況に応じ修正を加えるものとし、予算を担保するものではありません。

7. 整備スケジュール等

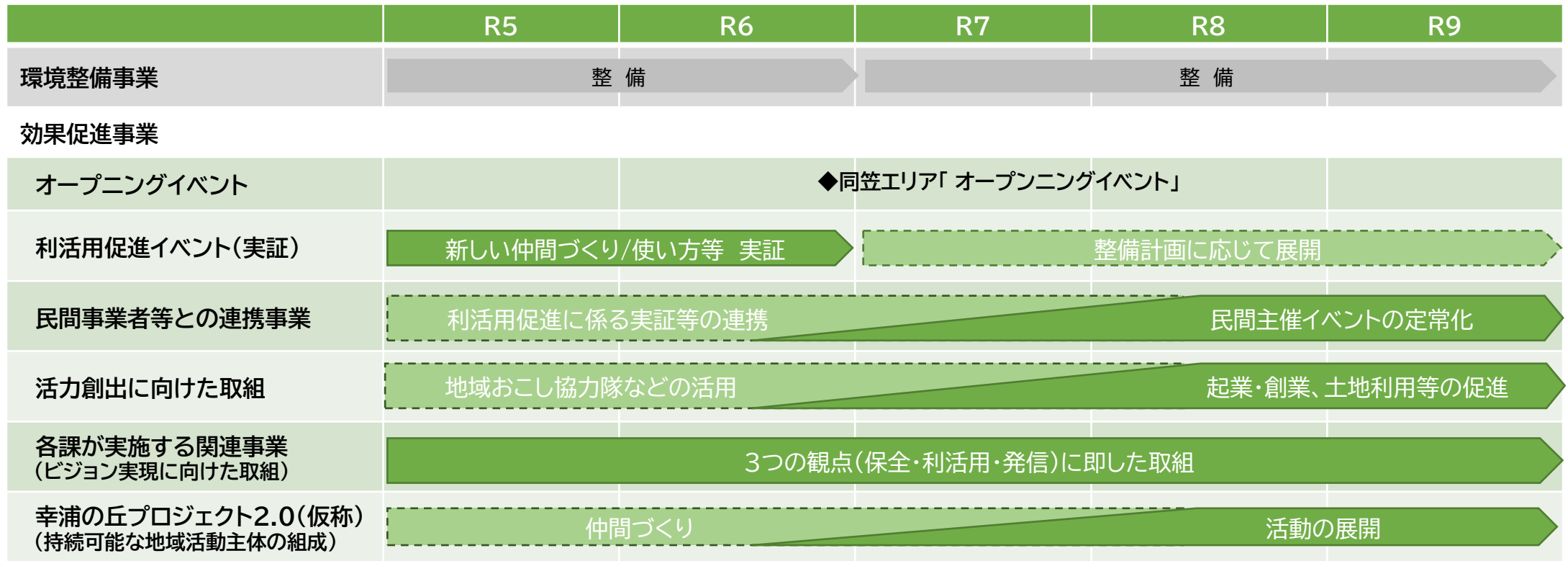
7-3 その他(効果促進事業)

○防潮堤の段床展望スペースや駐車場、公衆トイレ機能を兼ね備えた交流施設などの環境整備事業の効果を最大限引き出すために、整備段階に応じた効果促進事業も同時に展開します。

○効果促進事業とは、ビジョンの趣旨に基づき、自然環境の保全や利活用を担う新しい仲間づくりやまちの魅力の発信など、環境整備の事業効果を高めるために実施する関連事業です。具体的には、防潮堤の利活用等に関するアイデアなどの実証のほか、庁内関係課をはじめ、周辺市町や民間事業者らとの連携・協力したイベント等の開催など、新たな出会いや取組を促し、同笠エリアの魅力や事業効果を最大化させる取組を実施します。

○このほか、地域おこし協力隊の活用など活力創出に向けた取組のほか、持続可能な地域活動の基盤づくりとして「幸浦の丘プロジェクト2.0(仮称)」など、趣旨に賛同した地域住民や民間事業者ら組織する新たなコミュニティの形成に向けた取組も併せて、実施します。

(スケジュール)



7-4 財源について (活用を検討している財政支援制度)

基本計画の推進にあたっては、整備する施設の性質に応じ、対象となる補助金・助成金などを積極的に活用する。

- 観光地域づくり整備事業費補助金(静岡県補助金制度)
市町が作成する観光地域の整備に関する計画に基づき補助金を交付。
特定地域の事業(自然公園、当計画では防潮堤内)は補助率1/2、
それ以外(当計画ではスポーツエリア)は補助率1/3、補助金上限2億円
- 地域活性化事業債
(地域活性化のための基盤整備事業に限る)
充当率 90%
元利金償還に対する交付税措置率30%
- スポーツ振興くじ助成金
(独)日本スポーツ振興センター)
スポーツ競技施設整備に対し助成。
助成割合2/3、助成金上限2千万円
- 緊急自然災害防止対策事業債
(防潮堤エリア内事業に限る)
海岸保全事業が対象 充当率100%
元利金償還に対する交付税措置率70%

7. 整備スケジュール等

7-5 袋井市海のにぎわい創出ビジョン(素案)と取組に対する主な意見と回答の概要

| 意見交換の場(会議名称) | 主な意見の概要 | 回答の概要 |
|--|---|--|
| 浅羽南自治会長会議 (R4.6.25) | 防潮堤を車両で走行することは可能か。 | 同笠エリアの駐車場のみで、東西への走行は出来ない。 |
| | 同笠エリア以外の地区において、防潮堤への進入路などの整備は検討しているか。 | 他地区については、利用状況や要望を踏まえ、維持管理の在り方と併せて、順次検討していく。 |
| | これまで利活用を中心に検討してきたが、発信は苦手とするところ。しっかり取り組む必要がある。 | 3つの観点の1つに位置づけ、多様な主体と共に取り組んでいく。 |
| 南部会議 (R4.7.28) | ビジョンにカタカナ表記が多い。高齢の方にも理解していただきやすいように、日本語表記へ修正してはどうか。 | 企業やより豊かなライフスタイル追求するアクティブ派など多様な主体との連携も視野に入れつつ、12月市議会に向けて検討する。 |
| | 地元の方々の理解と協力が必要である。 | 多様な機会を通じて地元をはじめとする多様な主体と意見交換を図る。 |
| | トイレの管理者は誰になるのか。 | 気運醸成イベントなども活用しつつ、維持管理体制について検討を深めていく。 |
| | 取り戻したい「昔のにぎわい」とは。 | 海プロを通じて日常的に市民が海を使っている状態に戻していきたい。 |
| 第1回袋井幸浦の丘 プロジェクトワークショップ (R4.7.31) | かつては砂浜で砂の造形や地引網などが行われていたが、海岸侵食が進んでしまった。この対策など、自然環境の保全にもしっかり取り組んでいく必要がある。 | ビジョンにおいて課題を明示することで、取組を進める必要性を共有するなど、反映方法について12月市議会に向けて検討中。 |
| | サイクリングイベントやマルシェ、音楽イベント、ドローンレースなど多様なイベント利用ができそう。 | 活用可能性の共有方法について検討中。 |
| | 環境整備後の維持管理(ゴミ、草刈り、防犯など)が心配。 | 気運醸成イベントなども活用しつつ、維持管理体制について検討を深めていく。 |
| | 砂浜の利活用や自転車道の安全のためにも海岸侵食対策の強化や離岸流の危険性の周知が必要。 | ビジョンにおいて課題を明示することで、取組を進める必要性を共有するなど、反映方法について12月市議会に向けて検討中。 |
| | 防潮堤への車の進入などの環境整備による環境保全上好ましくない。 | 保全、利活用、発信を三位一体で取り組むことで、持続的な地域の発展を目指していきたい。 |
| | ビジョンは、20年後では遅い。せめて10年後を目指すべき。 | 多様な主体と共に、保全、利活用、発信の3つの観点を共有し、官民共創により海プロを推進するため、積極的なビジョンの共有を図っていく。 |
| | 未来の袋井市を担う若手の意見反映が必要。 (静岡文化芸術大学)これまで維持管理課のみの関わりであったものが、企画政策課やスポーツ政策課がプロジェクトに加わり、更に多様な部局を巻き込みながら進めようとしている。非常に心強く感じている。 | 気運醸成イベントなどを活用しつつ意見反映に取り組む。 ビジョン(VII ビジョンの推進に向けて(推進体制))において整理する。 |
| 自治会連合会長会議 (R4.8.4) | 津波被害が想定される沿岸部において、安全安心が第一に求められる中で、利活用によるにぎわい創出といかに両立を図っていくのか。 | 避難誘導表示の整備などソフト事業において、安心して利用できる環境づくりを行っていく。 |
| 海のにぎわい創出プロジェクト 勉強会 (R4.8.18) <主催> 浅羽町商会、 浅羽企業交流会、 袋井市観光協会浅羽まちおこし部会 | イベントを実施するのであれば、協力したい。 | 複数機会を活用して同笠エリアの活用実証をしていきたい。11月3日に市主催のイベントを実施予定なので、是非連携して取り組みたい。 |
| | 太平洋岸自転車道に雑草が生い茂っている。草刈りなど適切な管理が必要。 | 今まで以上に県等に要望していくためにも、取組を通じて仲間づくりを進め、広域かつ多様な主体の意見として伝えていきたい。 |
| | 対象は、サーファーや釣り人が主なのか。大野で9反分の花畑を企画している。荒地対策としても効果的であると考えている。 | まずは今の利用者の利便性向上が主だが、多様な方にご利用いただけるように、イベントで使い方の実証や未利用地の活用検討を進めていきたい。 |
| | ひまわり畑で「どこでもドア」を設置して話題になった。かつて、どんどこあさば場所には恐竜があり、多くの人があった。段床展望スペースにブランコを設置してもいい。ワクワクするような取組を考えたい。 | 行政の苦手としている部分だからこそ、皆さまと連携し、応援をいただく中で、ワクワクするエリアづくりを進めていきたい。 |
| | 昔と比べ海岸侵食が進行した。また、砂浜への進入路が崖になって危険である。進入路はどうか。 | 養浜に関しては、引き続きサンドバイパス事業の適正な運用を県に要望する。砂浜への進入路については、アクセス動線とセットで今後検討する。 |
| | また来たいと思われる整備が必要。特に女性はトイレがきれいでない、また行きたくないと思わない。集客が重要。同笠はサーファーも多い。また、浅羽はこどもが遊べる場所が少ない。 | 引き続き検討を深めていく。 県外サーファーも多く、まずはこのエリアの魅力を最大化していく。 |

7. 整備スケジュール等

7-5 袋井市海のにぎわい創出ビジョン(素案)と取組に対する主な意見と回答の概要

| 意見交換の場(会議名称) | 主な意見の概要 | 回答の概要(対応状況) |
|---|---|---|
| <p>第2回袋井幸浦の丘 プロジェクトワークショップ (R4.10.30) ※11. 3現地見学会含む</p> | <p>ワークショップでの説明と現地見学会により防潮堤の整備イメージがつかめた。段床スペースからの眺望は、想像していた以上に良く、期待したい。</p> | <p>期待に応えることが出来るよう、基本計画を整理していく。</p> |
| | <p>維持管理も含めた利活用を、地域と共に考えていけるといい。</p> | <p>幸浦の丘プロジェクト2.0の立ち上げを目指して取り組んでいく。</p> |
| | <p>(静岡文化芸術大学)この一年でここまで、このプロジェクトが具体的に議論され、こんなスピードで進捗するとは思っていなかった。今まさに、これまでWSで議論してきた意見が、市の計画として反映され、また実証イベント等で確認しながら進められようとしている。この進め方は実に正しく、理想的である。</p> | <p>利用者目線でそのニーズに応じながら、維持管理や利活用の状況も踏まえて、発展的に、徐々に拡大させていけるプロジェクトとして育てていく。</p> |
| <p>海プロフェスタ[活用実証事業] (R4.11.3)</p> | <p>久しぶりに海を訪れたが、想像以上にきれいだった。海プロの取組に期待したい。</p> | <p>海が持つ価値を守り、活用し、発信する中でビジョンの実現を目指していく。</p> |
| | <p>ヒラメの稚魚放流イベントを通じて、浅羽の海でヒラメが釣れることを知った。</p> | <p>互恵関係をしっかりと生み出しながら多様な主体と連携していく。</p> |
| | <p>サーフィンや釣り、スポーツに加え、上空を飛行していたパラモーターなど多様な魅力を感じた。</p> | <p>多様な主体とも連携し、まちの魅力の発信に積極的に取り組んでいく。</p> |
| | <p>すぐに駐車場が満車になってしまった。臨時駐車場も遠く、不便であった。</p> | <p>イベント内容や開催日の工夫など、運用面も含めて対応していく。</p> |
| | <p>会場内の案内が少なく、海エリアも離れており、全体が分かりにくかった。</p> | <p>一体感を醸成する施設配置や意匠などについて基本計画において検討する。</p> |
| <p>第3回袋井幸浦の丘 プロジェクトワークショップ (R5.1.29)</p> | <p>シャワー・水洗い場について、水を出したまま等いたずらされないか心配である。</p> | <p>他県の事例も参考にしながら、自動で水がとまるタイプのものなど検討する。</p> |
| | <p>防潮堤の水の処理はどのように考えるか。</p> | <p>防潮堤整備で浸透枿を1箇所/40m設置しており、排水は浸透枿へ集めて浸透させる考えである。</p> |
| <p>南部会議 (R5.2.8)</p> | <p>令和9年までの5年間で約6億円の事業費であるが財源はどう考えているか。</p> | <p>県補助金やスポーツ振興くじ助成制度を活用していく予定である。</p> |
| | <p>海辺の駐車場や進入路について事業費が大きいが過大ではないか。</p> | <p>駐車場については雨水排水施設の整備、進入路についても拡幅に伴い擁壁の整備が必要である。事業費については詳細設計で精査していく。</p> |
| | <p>早くできるといい。海岸侵食が進んでしまったので砂浜が昔のように戻れば、さらに同笠海岸がにぎわうため、国や県に働きかけるなど推進してほしい。</p> | <p>海プロフェスタなどを通じてより多くの人に注目してもらい、国や県に引き続き要望していく。</p> |

8 参考資料(事前協議)

| 意見交換の場(会議名称) | 主な意見の概要 | 回答の概要 |
|--------------|--|--|
| 静岡県との事前協議 | (中遠農林事務所)保安林内であっても、森林保健施設の整備は可能だが、何を整備するのか、維持管理の在り方をどうするのかを含め、協定を締結する必要がある。 (自然保護課)自然保護団体と調整を図ってほしい。また、防潮堤エリアでの施設整備にあたっては、県立自然公園条例に係る規制(第2種特別地域)にご留意願いたい。 | 基本計画及び設計業務において整備内容を整理するとともに、多様な主体による持続可能な維持管理体制の構築に向けた検討を進める。 基本計画及び設計業務において整理していく。 |
| 自然保護団体との事前協議 | (サンクチュアリ)これまで砂浜を車で走ったことで植物を枯らし、砂浜を減らしてしまった経緯があり、自然環境保全の観点からは、砂浜に車を入れないのが一番である。駐車場の必要性は感じており、防潮堤までの乗り入れであれば問題ない。また、車のライトについても、長時間点けたままでなければ動植物への影響はない。 | 本エリアは、県立自然公園や保安林に指定されており、多様な動植物を育む自然環境に配慮していることを、海岸利用者及び来訪者に周知する看板などを設置していく。 |

同エリア内の土地利用に関する法規制

| 各種法令等 | エリア | 規制の概要 | 整備手法と事前協議 | その他 |
|------------------------------|---|--|--|---|
| 森林法 (保安林・5条森林) | 同笠エリアの防潮堤においては、保安林=5条森林であるため、より厳しい規制である保安林に係る規定が適用される | ① 5条森林における開発行為 ・ 1ha未満の伐採を伴う場合 ➢ 「伐採届」及び「伐採調査(小規模林地開発)」の提出(届出) ・ 1ha以上の場合 ➢ 「林地開発許可」(県知事) ② 保安林における開発行為 ・ 開発行為は禁止されている(できない) | 保安林内における開発行為は禁止されているが、森林の機能を損なわない範囲で保健休養の場としての整備とすることで、「生活環境保全林整備事業(治山事業)」として実施することが可能。 事業実施にあたっては、中遠農林事務所治山課と事業箇所・内容等について協議を継続して実施している。保安林内における事業の方向性(駐車場整備、シャワー、展望スペース等の設置)については事前協議済みであり、治山事業として適切に事業を実施していくため、事業の進捗に応じて、継続的に協議を実施していく。 | 生活環境保全林整備事業(治山事業)として整備した施設等については、設計時の図面及び一覧より台帳管理され、それらを森林の機能を維持しつつ適切に維持管理するために、整備地の自治体である市と管理者である県との間で、市が維持管理を実施していく旨の協定を締結している。 |
| 県立自然公園条例 (御前崎遠州灘県立自然公園海岸) | 浅羽体育センターエリア以南(海岸含む)が県立自然公園第2種特別地域に指定されている | 第2種特別地域における行為規制(許可制・抜粋) ア 工作物の新增改築 イ 広告物等の掲出、設置、工作物等への表示 ウ 土地の形状変更 | 特別地域内の行為許可にあたって ア 開発面積が1ha以上の場合 ➢ 環境影響調査の実施 ※海のにぎわい創出プロジェクトに係る整備面積は約0.5haのため不要 イ 土地利用指導要綱に係る手続きの実施 ➢ 袋井市土地利用事業の適正化に関する指導要綱第3条(適用の除外)に該当するため手続き不要 ※(8)国、都道府県、市等が行う土地利用事業にあたるため ウ 開発行為 ➢ 建築物の建築等を目的とした区画形質の変更を行う事業が対象であり、本事業は対象外(シャワーも屋根を有しない形状で検討中) ※建築物...屋根及び柱若しくは壁を有するもの(建築基準法) | 防潮堤エリア(第2種特別地域)における事業実施にあたっては、県自然保護課に事前協議を実施しており、進入路及び駐車場、シャワー、水道施設、段床部、ベンチ、フェンス、看板等の設置にあたって事前協議を実施した。 (ただし、形状や色彩などに係る規制もあるため、設計段階など継続協議が必要)。 許可にあたっては、「地元の自然保護団体(サンクチュアリ)との調整を図ること」という付帯条件が付くとのこと。 |
| 鳥獣保護管理法 (鳥獣保護区) | 遠州灘鳥獣保護区においては、特別保護地区又は特別保護指定区域の指定はない | 鳥獣保護管理法における開発行為等に係る規制は、特別保護地区又は特別保護指定区域に指定されている場合に一定の行為が要許可行為として定められている | 規制内容は「狩猟が認められない」のみ | |

8 参考資料(整備後の同笠エリア鳥瞰図)



8 参考資料(整備後の同笠エリア鳥瞰図)



8 参考資料(駐車場位置図)

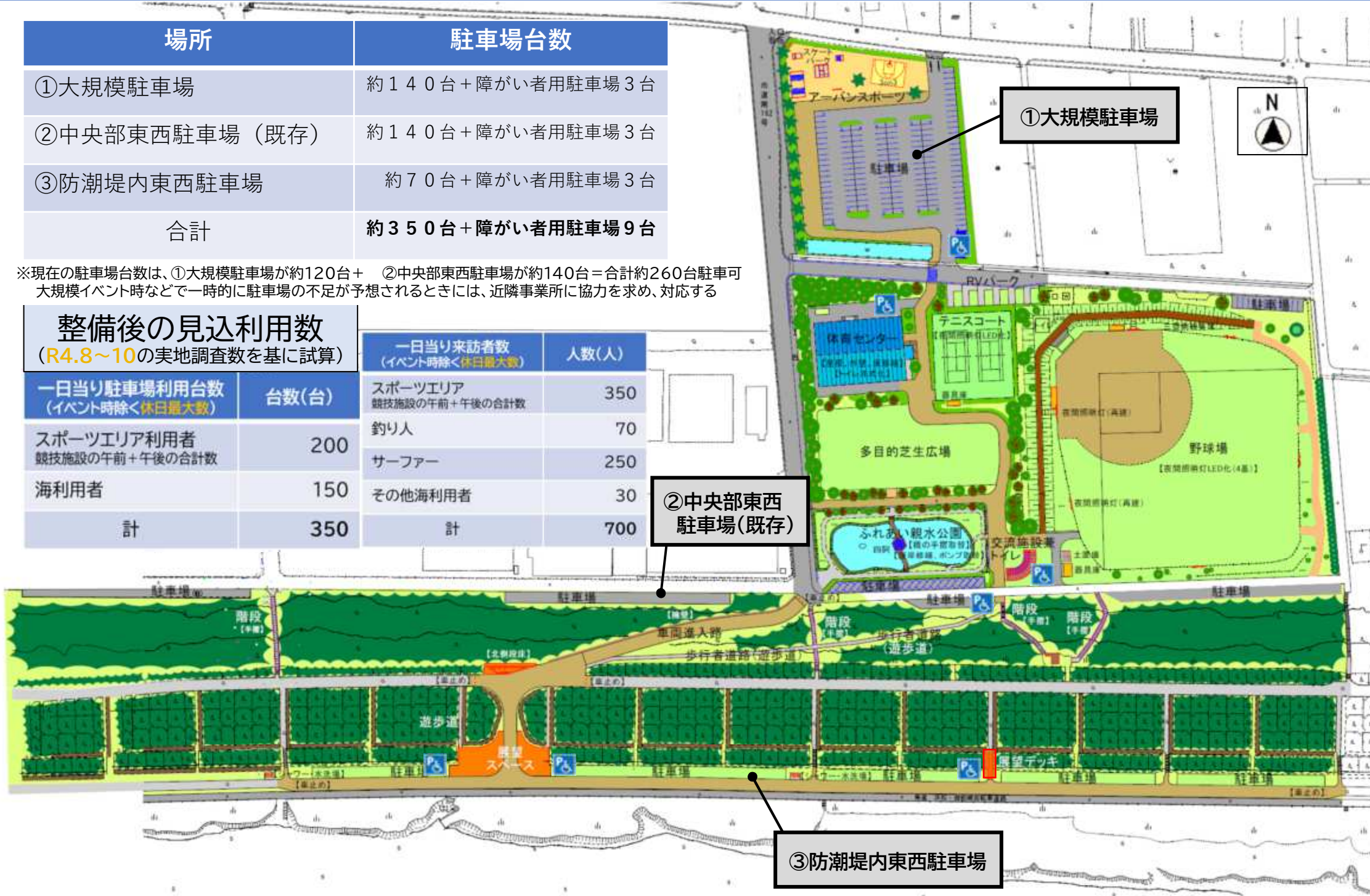
| 場所 | 駐車場台数 |
|---------------|------------------|
| ①大規模駐車場 | 約140台+障がい者用駐車場3台 |
| ②中央部東西駐車場(既存) | 約140台+障がい者用駐車場3台 |
| ③防潮堤内東西駐車場 | 約70台+障がい者用駐車場3台 |
| 合計 | 約350台+障がい者用駐車場9台 |

※現在の駐車場台数は、①大規模駐車場が約120台+ ②中央部東西駐車場が約140台=合計約260台駐車可
大規模イベント時などで一時的に駐車場の不足が予想される際には、近隣事業所に協力を求め、対応する

整備後の見込利用数
(R4.8~10の実地調査数を基に試算)

| 一日当り駐車場利用台数 (イベント時除く休日最大数) | 台数(台) |
|-------------------------------|-------|
| スポーツエリア利用者 競技施設の午前+午後の合計数 | 200 |
| 海利用者 | 150 |
| 計 | 350 |

| 一日当り来訪者数 (イベント時除く休日最大数) | 人数(人) |
|----------------------------|-------|
| スポーツエリア 競技施設の午前+午後の合計数 | 350 |
| 釣り人 | 70 |
| サーファー | 250 |
| その他海利用者 | 30 |
| 計 | 700 |



①大規模駐車場

②中央部東西
駐車場(既存)

③防潮堤内東西駐車場

